

# プロジェクト報告 Project Reports

## 日本 『東北地方太平洋沖地震』 被災者支援

2011年4月6日～  
宮城県、福島県 6地域

2011年3月11日に発生したM9.0の地震と津波により、宮城県、岩手県、福島県は壊滅的な大打撃を受けた。前フェーズでICAは宮城県、福島県の13カ所の避難所におけるニーズ調査と物資配布を実施したが、宮城県沿岸南部と福島県沿岸北部においては、未だに物資を必要とする避難所も多く、福島県で



石巻市における物資配布を実施



岩手県宮古の被害



岩手県宮古の被害



岩手県山田町の被害

は68カ所の避難所に約4000人の被災者が生活していた。そして支援活動を行う団体も少ないことから、ICAは支援を継続するに至った。

ICAは、避難所で生活する被災者及び仮設住宅に入居する人々、または賃貸入居者が必要最低限の生活を営むため、ニーズの高かった食料、布団、家具、調理セット、家電などを配布した。配布は、缶詰、レトルト食品、米、調味料など。その他各地のニーズに合わせて下着や生活用品なども配布した。

生活物資としては、組み立て式家具、ふとんセット、鍋、フライパンセット、洗濯機、乾燥機、家電6点セット、下着、飲料水、石鹸、タオルほか。

復興においては、自治体による支援体勢から、被災者が自力で立ち上がる環境を構築するため、宮城県、福島県の町役場から依頼のあった被災者参加型自立サポート・ワークショップを実施した。ワークショップには、福島県相馬市より20名、新地町15名、宮城県山元町より25名が参加し、自主的かつ積極的な行動に繋がり、自立・復興に向けて前向きに取り組む基盤を構築するサポートができた。

通常だと100年かかると言われている瓦礫撤去作業は、地元の業者だけではまかない切れない部分があり、自治体、NPO、外部専門家が協働で実施する。また、放射能で窓を開けることができない学校に対する扇風機、空気清浄機、エアコン、水の浄化器などの要望が高く、新たなニーズに対して、特に子供の健康が維持出来るような物資配布をする。



桂島に対する支援物資の様子



新地町における物資配布の様子



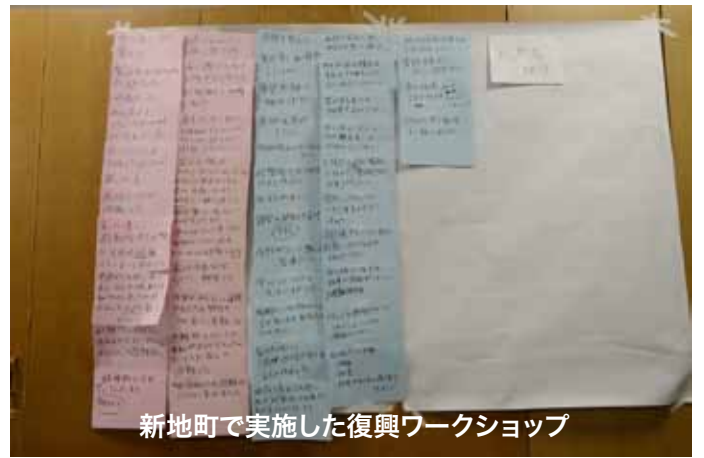
新地町では被災者と共に物資の仕分け



相馬市における物資配布



新地町で実施した復興ワークショップ



新地町で実施した復興ワークショップ



福島市瀬戸市長へ活動報告



被災者への活動報告を実施